

目 次

1	発刊にあたって	1
2	入賞者一覧	2
3	作文コンクール（要項・応募状況・審査内容）.....	3
4	受賞作文	4
	富山県知事賞 黒部市立桜井中学校 辻 八雲 ...	4
	北方領土問題対策協会理事長賞 射水市立奈古中学校 三箇英吏子 ...	5
	北方領土返還要求運動富山県民会議会長賞 富山市立西部中学校 菅原 峻司 ...	6
	富山県教育委員会教育長賞 黒部市立鷹施中学校 能登賢太郎 ...	7
	富山県市長会会長賞 黒部市立高志野中学校 本波 万結 ...	8
	富山県「北方領土問題」教育者会議会長賞 魚津市立西部中学校 栗原 静佳 ...	9
	入選 射水市立奈古中学校 齋藤 力 ...	10
	入選 富山市立和合中学校 佐武 陸史 ...	12
	入選 黒部市立高志野中学校 寺田 翔太 ...	13
	入選 黒部市立高志野中学校 中西 愛子 ...	14
	入選 黒部市立桜井中学校 堀内裕美子 ...	15
	入選 富山市立西部中学校 山崎 千愛 ...	16

（巻末）参考資料

発刊にあたって

北方領土は、私たち富山県民にとって先人が開拓した大切な領土であり、本県に六百人以上おおいでになる元島民の方々にとつてはかけがえのない故郷です。しかし、戦後六十五年が経過した今日も依然としてロシアによる不法占拠が続けられています。

「私たちと北方領土」作文コンクールは、中学生を対象に、北方領土という日本の領土でありながら日本人が自由に往来できない地域があるという現実を正しく理解し、関心と呼び起こすことを目的に実施したもので、今回で四回目となります。

県内全域の中学生から多数の応募をいただき、北方領土の歴史や富山県とのかかわり、国際情勢を分析しながら現在の交流の状況などを自分で調べ、興味と関心をもって学習している生徒が多いことに驚きました。この作文集は、そのうち十二編の入賞作品を掲載しておりますが、いずれも大変すばらしい作品であり、北方領土問題に正面から向き合つて考えたこと、問題の解決には国民の粘り強い取組みが必要なこと、ロシア人との相互理解が必要であることなどが訴えられています。また、残念ながら、あと一歩で入選を逃された作品の中にも、きらりと光るすばらしい作品が数多くありました。

これらの多くの作品から、北方領土問題解決の希望を担う次世代の皆さんが育つていくことがうかがわれ、喜びにたえません。また、こうした学習を通し、生徒が国際的な場でも活躍できる力を身に付けてくれるものと期待しております。

この作文コンクールを通して、北方領土問題の正しい理解とその返還運動について、自らの考えをもち、文章に表現することは、それぞれの学校における北方領土についての授業のあり方とその内容が大きくかわってくるということを改めて実感した次第であります。私ども県民会議と教育者会議では、昨年、北方領土に関する教育用DVDを県内全ての中学校に配布したところであり、今後授業を進める上で有用な教材として活用いただくよう取り組むとともに、引き続き、北方領土教育の一層の充実に努めていきたいと考えております。

おわりに、この作文コンクールにご協力いただきました多くの皆様方に改めて厚くお礼申し上げます、発刊の言葉といたします。

平成二十三年三月

北方領土返還要求運動富山県民会議

会長 鹿熊 正一

富山県北方領土問題教育者会議

会長 村田 博史

未来へつなぐ二月七日

黒部市立桜井中学校 三年 辻 八雲

今年の二月七日、ある授業で先生が

「今日、何の日か分かる人。」

と質問された。僕は何も思いつかず、記念日でも忘れていたかなと思った。僕を含むクラス全員がその答えがわからずじまいだった。そんな僕達を前に、先生は

「今日は北方領土の日です。あなた達は、黒部市民だから覚えておくべきですよ。」

と話された。僕は、北方領土と言えば、北海道の北にある択捉、国後、色丹、歯舞の四島だよなと日本地図を思い描いた。そして、記念日なんてわかるはずない、覚える必要があるのだろうかと思った。月日がたつにつれ、いつの間にか脳裏から消し去られていった。

七月、社会科で北方領土について学んだ。

「黒部市民なら北方領土の事を知っていて当たり前だ。」

とまたもや先生が話され、以前の記憶が呼び起こされた。

授業では、富山県が江戸時代に昆布ロードと呼ばれる西

廻り航路の中継地として発展し、なかでも黒部市生地から多くの漁民が出稼ぎに行っていた事や、第二次世界大戦を経て、四島がロシアに占拠された事などを学んだ。

祖父が生地出身のため、少し親しみがわいた。また、以前北海道の納沙布岬に旅行に行った時、肉眼で歯舞群島がはつきりと見え、

「こんなに近いんやね。」

と皆で口々に言っていた事を思い出した。

なぜ、戦後六十五年がたつ現在も、北方領土問題は解決しないのだろうか。ロシアによる占拠が不当行為である事は、歴史的経緯からみても明らかだ。しかし、日本側にも、発言のブレなど、不利な部分が存在する事は否定できない。

日口両国とも、四島を自国の領土としたい、その思惑が不利な事を隠そうとする姿勢となつて表れ、互いに話し合おうとしないように感じる。この姿勢が北方領土問題を停滞させてきたのではないか。今後は、すべてを包み隠さずに話し、議論していく必要があるのではないかと思う。

その一方で、日口間のビザなし訪問など、交流事業が行われている。互いを行き来し、その交流を通じて、それぞれの立場について理解を深める事が目的だ。思いやりをもち、少しずつ歩みよっていければいいと願う。

北方領土問題は、単なる領土問題ではなく、今なお続く戦争の後遺症だと感じた。戦争は大切な命を無数に奪うだけでなく、北方領土の住民の穏やかな生活を壊し、故郷を奪った。何も知らずにロシアから移住してきた人々も、そこに住むのはいけないと言われ、とても傷ついているのではないだろうか。

ますます戦争とは、百害あつて一利なしだと思つた。そして、一刻も早く戦争の面影を取り除き、永久に戦争の起さない平和な世界を創っていかねばならないと強く感じた。

北方領土について考えたこと

射水市立奈古中学校 一年 三箇英吏子

私は、今まで北方領土について、詳しく調べたことがありませんでした。また、テレビで取り上げられても、あまり関心をもっていませんでした。しかし、今、社会科で習っている領土、領海、経済水域などから考えてみると、とても日本にとって重大な領土問題なんだということが分

かってきました。また、日本とロシアの深い歴史についても知りたいなと思ひました。ニュースでロシアや北方領土のことが流れると、意識して見るようになりました。

私は、今までは、日本が戦争に負けたから、領土が占領されても仕方がないと簡単に考えていました。しかし、学習を進めていくうちに、昭和二六年にサンフランシスコ平和条約が結ばれ、日本は千島列島を放棄しましたが、放棄したのはウルップ島より北の島のことで、北方四島は含まれていないことを知りました。さらに、ロシアは北方四島を占領した際に、そこに住んでいた日本人たちに、略奪などのひどいことをしたことも知りました。私は、領土のこと以上に、島に住んでいただけの日本人たちに、醜いことをするのは絶対にやめてほしいと思ひました。改めて、戦争がとても残酷なことなのだと思います。私がもうひとつ考えたことは、経済水域の視点から考えてみると、やっぱり領土があると利益もあるので、ロシアも手放したくないのだろうと思ひました。母は、「アメリカは、収入資源が多くて裕福な国だけれど、ロシアは、収入資源が少なから北方領土を手放したくないのかもしれないね。」と、言っていました。私も、「やっぱり、そうなのかな。」と、思ひました。しかし、だからと言って歴史をふり返ると、

一度もロシアの領土になったことのない北方四島に日本人が住めないこの事実を知って、私の中にも「返還してほしい。早く。」という気持ちが強くわき上がりました。さらに、北方領土と富山県とが深くかかわっていることも知り、返還してほしいという気持ちは、さらに強くなりました。自分のふるさとを奪われるということは、とても悲しいことで、そのような方たちが県内におられると、余計に返還してほしい気持ちは強くなりました。ただ、平和的な解決を強く望みます。そのためにも、今、私が学習している知識をもっと広く、もっと深めて、解決の糸口に携われたらと、考えました。一日も早く、北方四島返還が実現したらいいなと思います。

北方領土問題について思うこと

富山市立西部中学校 二年 菅原 峻司

僕は、北方領土問題のビデオを見て北方領土に関する問題について深く考えることができました。

まず歴史の事実からみていくと、一六四四年に江戸幕府

の「正保御国絵図」では「エトロホ」や「クナシリ」といった地名があり、松前藩の「新羅之記録」では支配下においてあるという記録が残っています。またロシアによる初めての探険は一七一一年であったとされています。このことから古くから日本の領土であったということがわかります。一八五五年の日露通好条約ではウルップ島より北をロシア、それより南を日本とし、北方領土は日本の領土と法的に認められました。それなのにロシアは突然、島民を追い出したりと不法占領をし未だ占領を続けています。

北方領土周辺は寒流と暖流がぶつかりあう世界三大漁場の一つで富山県民も多くの人々が移住し富山県とも深い関わりをもっています。日本の領土であることは明確で地理的にも非常に重要な場所なのです。なので、一日でも早く領土の返還が実現すればよいと思います。

しかしだからといってロシアと友好関係を築けなくなるようになるとだめだと思います。領土返還の実現が遠ざかるかもしれないからです。このためにはまず日本国民もロシア国民も一人一人が正しい知識と理解を互いに深めていくことが大切だと思います。そして、一人でも多くの人が北方領土に関心をもち粘り強く返還運動をしていくことがよいと思います。特に富山県人には強いつながりがあるの

で努力すべきです。例えば署名活動など身近なところからでも活動しているものもあります。この北方領土の問題は日本人として真剣に考えていかなければならない重要な問題だと思いました。

アメリカも沖縄や小笠原を占領していた時期があったけど返してくれました。なので、ロシアに対しても同じようにしていけばロシアも返してくれるのではないかと思えます。そのことを心がけながら希望をもって返還運動をやっていくことが大切だと思います。

領土の返還問題を含んだ日露の会談も最近多くなっているようで、菅首相との日露首脳会談ではメドベージェフ大統領は難しい問題だが解決できない問題ではないといった要旨の発言をし、関心を示したことからこれからの進展を期待していききたいなと思いました。

今までは北方領土問題があることは知っていたけどどのような問題なのか、今はどうなっているのかなど知らなかったし、考えることもありませんでした。しかしこの勉強を通して僕達一人一人がこの問題をしっかりと知り、考え、そして活動していくことの大切さがわかりました。これからも北方領土問題が解決するためにもっと詳しく調べたり、返還運動に参加していききたいなと思いました。

これからの北方領土

黒部市立鷹施中学校 三年 能登賢太郎

「北方領土を返せ」という言葉に、僕は心を動かされました。これは八月に根室市の北方領土返還要求運動で、地の中学生が訴えた言葉です。その強い言葉からは、北方領土が奪われたことへの怒りや、返還への強い信念を感じました。

北方領土が当時のソ連に占領されたあの日から六十五年。どうしてもそこまで時間がかかってしまったのでしょうか。

それにはさまざまな要因があったことだと思いますが、アメリカとソ連の対立が一つの要因だと言えるでしょう。しかし、ソ連も二十年ほど前に解体しています。その時には両国の対立はなくなったわけですから、返還のチャンスはあったはずですよ。ということは、日本の外交姿勢に問題があったのだと考えるのが自然です。

しかし、考えてみれば、ここまで時間がかかってしまったからこそ、返還がうまくいかないのではないのでしょうか。

か。

ソ連が北方領土を占領した後に移住してきた人たち、六十五年も経てばその人たちの子はもちろん、孫もいるはずです。その子や孫にとつては、生まれ育った北方領土こそがふるさとなのです。そんな人たちから北方領土——彼らのふるさとを奪うことを果たして北方領土の「返還」と言つてよいのでしょうか。もし、今考える「返還」が実行されれば、彼らはふるさとを奪われることになるのです。つまり、六十五年前同様、ふるさとを失つて怒り悲しむ人達が増えるわけです。

僕たち日本人は一概に領土問題をロシアのせいにするのではなく、この事実を重く受けとめ、自分達にも責任があるということに自覚しなければなりません。また、国民の世論として、政府に強く訴えることも大切です。

そのための取り組みについて、根室市で地元の中学生や、富山県、和歌山県の中学生たちと意見を交わしました。ここでは日ロ両国の主張や、日本の要求を明確にするといったものから、人気俳優が出演する北方領土関連のドラマを作るなどといった幅広い意見が出されました。

我が国日本の固有の領土である北方領土。しかし、そこに住むロシア人たちのふるさとでもある北方領土。日本は

こんな複雑な状況に陥ってしまったことを深く反省しなければいけません。また、これからは「返還」ばかりに固執しては、ロシアとはうまく話が進展しないのですから、もっと違う解決法を見出していかなければならないでしょう。そして何よりも、みんなが自国を愛し、守つていこうという気持ちでいること。それが大切なことだろうと思います。

私たちの北方領土

黒部市立高志野中学校 三年 本波 万結

古来から日本の領土である「北方領土」は今もロシアの不法占拠の下に置かれた状態が続いている。そして日本では今日まで、領土問題を解決するため外交交渉が何度も行われている。しかし、未だに返還されていない。領土は日本のものなのだから、返還するのはあたりまえだと思う。どうして返還される日がこないのだろう。私は総合の学習を通して改めて考えるようになりました。私たちが住んでいる富山県は北海道に次いで島に渡って生活をしてきた人

が多かったので、とても驚きました。住民は当時こんぶ漁中心の生活でした。不便なことや困難なことも多かったのですが、豊かな資源に恵まれ、将来に明るい希望をもって一生懸命努力していたそうです。そんな人々の努力もソ連軍はあつという間に奪ってしまいました。今は他人ごとのようにしか思えないけど、もし自分の故郷または祖先の地が一瞬にしてなくなると思うと、何だかゾツとしました。元島民の方々にとって本当に苦しい出来事だと思います。それとは反対に、北方領土で生まれ育っているロシアの人々にとつても大切な故郷だと思います。一方的に日本側がロシア側を批判し要求し続けても、もつと問題は深くなるばかりだと思います。罪のないロシア人が今の領土での生活を奪われるのもおかしいと思います。こう考えていくと、領土問題を解決するのにとでもたくさんの時間がかかっていることに納得がいききました。どちら側も誰もが幸せに生活できる解決策を考えるのは難しいことだと思えます。しかし、領土問題の解決に向けて日口間で相互交流を行っているということを耳にしました。返還を要求するだけでなく、日本とロシアの間に安定した友好関係を築こうという活動はとても良いなと思いました。日口両国民ひとりひとりが、日本の固有の領土である北方領土について理

解と認識を深めることが交流することによって、十分に深まると思えます。最終的には日本に無事に返還してほしいですが、まずはお互いの立場についてしっかり考え、友好が深まることが大切であると思います。今後、一日でも早く返還されるよう、問題が解決できるよう、引き続き交渉を継続していつてほしいと思います。そして、自分にとってまったく関係の無い出来事とするのではなく、しっかりと向き合っていこうと思います。

日本の島が還ることを願つて

魚津市立西部中学校 三年 栗原 静佳

先日、社会の勉強で今まで習ったことを復習していたら、「日本の最北・最南・最東・最西端の島をそれぞれ書け」という問題があった。最南・最東・最西端は特に何の疑問も抱かなかつたが、最北端の「択捉島」だけは、よく考えてみて、「ん？」となつた。択捉島といえば北方領土の一部で、現在日本がロシアに返還を求めている領土ではないか。それがなぜ日本の最北端に？矛盾している事実を首を

ひねりながらも、北方領土について詳しく調べてみることにした。

まず疑問に思った、「なぜ北方領土に属する択捉島が日本の最北端なのか？」という問題の答えは、「北方領土が日本固有の領土」だからだった。日本固有の領土というのであれば、日本が長い間ロシアに返還を求め続けているのも分かった気がした。

そして、北方領土について新たに分かったことがあった。その内の一つは、「富山県は、北海道に次いで、北方領土から引き揚げてきた人々が多い」ということだった。この事実には驚いた。てつきり東北が多いものだと思っていたが、まさか富山だったとは。なんでも、富山県の漁師はよく働くと言われ歓迎されており、こんぶ漁が盛んで、北方領土におけるこんぶ漁の発展は、富山県民の力と言っても過言でもないようだ。ほとんど付き合いが無いと思っていた、北方領土と富山の意外な接点をかいま見れた情報だった。

だが、何より重要だと思ったのは、現在ロシアは北方領土を「不法占拠」しているということだ。なぜここまで長い間不法占拠を続けているのに、世界的な問題に発展しないんだ？交渉がなかなか進まないんだ？と思った。

改めて北方領土の島々の写真を見てみたが、手つかずの自然が多く残っており、これから守っていかなければならない島だと感じた。

現在の日本とロシアの関係はますますのようだが、それをずっと保つていようという考えでは、北方領土問題はいつまで経つても解決しないと思う。もつと他国の力も借りて、積極的に問題解決に取り組んでいく姿勢が大切だと思う。そして、いつの日か、日本人が自由に行き来できる島になって、再び富山県民が、北方領土の島々で昔のように活躍できることを願う。

みんなが向き合う北方領土

射水市立奈古中学校 一年 齋藤 力

僕は、今まで北方領土について、「日本がロシアに択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四島の返還を求めている。」ということくらいしか知りませんでした。先生に、もつと詳しく授業で教えてもらったら、あまりにも悲惨な事実を知ってしまいました。

富山県の人たちが、最初に北方領土へ行ったのは、明治時代初期に黒部市の生地からだったそうです。それからまもなく、昭和時代になると、入善、朝日、泊の人たちが島に分散しました。富山県出身者が多いのは、歯舞群島でした。歯舞群島では、漁業だけで生活するのは難しく、たびたび北海道に出稼ぎに行ったそうです。仕事内容は、毎年五月になると、島へ渡り、前の年に置いてきた昆布を一段一段と重ねて検査に出すという仕事をくり返し、富山県の人たちが昆布漁業を開拓したと知りました。しかし、そんな生活も困難な事ばかりだったそうです。電気は全くなく、ランプをぶら下げて電気代わりにしていました。水は、井戸水を利用し、いつもくみ置きでした。新聞は、一週間から十日くらい遅れていたもので、最新の情報が全く入らない状況でした。それでも、富山県の人たちは、日々生きるために困難に耐えて頑張りました。

戦後、ロシアの人たちに、返還要求運動をするなど、北方領土返還に大変な努力もしてきました。それでも、なかなか実現せず、四島のうち二島からでも返還されることを願っていましたが、残念ながらいまだに願いは叶えられませんが、富山県の人たちは言ったそうです。「返還運動とともに

環境破壊が進まないよう、日本人とロシア人が共に協力して北方領土を守っていきましょう。」と。僕は、この言葉に惹かれました。北方領土返還も大切ですが、でも、我々の手で北方領土を守っていくことが先決なのではないか、次世代へもこの問題を受け継ぐことが大切なのではないかと、改めて考えました。そして、このことを通して、日本人とロシア人とが互いに話し合いを進めて、これまでの歴史を一つずつ再確認し、平和的に領土問題を解決していったらよいと思います。

早く、北方領土が返還され、僕自身が実際にその土地に立ち、昔、島で苦しんだ人たちがや苦しみながら亡くなられた方たちの魂のそばに寄り添って、心を和らげてあげたいと思います。また、北方四島がふるさとである方たちに、一日も早くふるさとでの生活を送ってほしいと思います。

今回、学ぶことの大切さを知り、北方領土に強く関心をもつこともできました。これから先も、北方領土問題に関心を持ち続け、返還という日が来るまで、自分にできることとでかかわっていききたいと思いました。

北方領土返還のために

富山市立和合中学校 二年 佐武 陸史

一九四五年にソ連、つまり現在のロシア連邦は、日ソ中立条約を破り、日本から北方領土を奪った。日本は北方領土の返還を求めているが、未だ、北方領土はロシア領とされている。日本は北方領土を自国の領土と考えている。そのため、日本の世界地図は北方領土を日本の領土として記載している。しかし、海外の世界地図の多くは、北方領土をロシアの領土としている。つまり、ほとんどの国が北方領土は、ロシアのものだと考えているのである。北方領土が日本に返還されない限り、全ての国が、北方領土を日本の領土として世界地図に記載する日はやって来ない。日本が返還を求め続けているのに、なぜ、北方領土を取り返せないのか。

現在、北方領土にはロシア人が住んでいる。日本が北方領土の返還を求めるのであれば、北方領土に住んでいる住民をどうするのかを表明する必要がある。日本政府には、それを行つたうえで、返還運動を頑張つてほしい。

北方領土は、日本の固有の地であり、ロシアが勝手に奪つたものだから、早く返してほしい。しかし、返還を求めるときには、まだまだ問題がある。日本政府には、その問題を全て解決してもらいたい。そして、ロシアと何度も話し合つてもらいたい。北方領土の返還のためには、日本側はどうすれば良いのか。ロシア側はどのような考えなのか。日本側はどう考えているのか。互いの主張をぶつけ合い、答えが見つかるまで、何度も話し合つてほしい。日本には、日本の主張があり、ロシアには、ロシアの主張がある。互いの主張を知ること、互いの意見を尊重した答えが見つかるはずだ。互いに理解し合うこと、これが話し合いのうえで重要なことだと思う。しかし、ロシアと話し合う機会はとても少ない。だからこの問題は難しいのだと思う。そんな短い時間の中でも、密度の高い話し合いをして、何年かかっても良いから、この問題を解決してほしい。

今、日本国内では、たくさん問題がある。しかし、どんなに大変であっても、北方領土返還のためにも時間を使つてほしい。北方領土に住むロシア人をどうするかを決めていないのであれば、それを決めてほしいし、問題解決のために策を練つてほしい。僕は、全ての国が、北方領土を日本の領土として、世界地図に記載する日を待っている。

日本でない日本

黒部市立高志野中学校 三年 寺田 翔太

日本であつて日本でない。それが僕の北方領土に対する考えです。今でこそどげなしでの行き来が可能になりました。しかし、それでも一般人が行くことはそうそうありません。

なぜ北方領土がロシアなのかという部分は僕の中でずっと疑問でした。調べてみると、一九四五年に日本がポツダム宣言の受諾後である八月二十八日から九月五日にかけてソ連軍が上陸、占領したことによるものと分かりました。そして、その後日本国民は北海道、本州などに引き揚げた。ここよりこの北方領土問題が始まったことも同時に分かりました。

それではこの問題の本題に入るとします。なんで戦後六十年以上たった今でも北方領土が返ってこないのかということですか。理由としてロシア側から見た時にこの問題が解決されていなくても日口間の経済的交流は進んでいてわざ

わざ国民の反感を買うであろう領土の引き渡しをする必要がないと思つている事と、以前は日本側に「ロシアは経済的に困窮している。よつてそのうちロシア側が経済的困窮に耐えられず日本側に譲歩し、北方領土を引き渡すであろう」という考えがあつたからです。しかし、目論見とは裏腹にロシアは近年経済的發展をしていてそういうことを言える時期を逃してしまつた。また、日ロ平和条約締結時に色丹島と歯舞群島を返還するというロシアの主張と四島返還を求める日本とで意見が合わないのもこの領土問題の進展を妨げている。確かにロシア側の言い分も分からなくはありません。現在ほぼ無人島である両島の返還ならば問題がそこまで起きずに済むからです。しかし仮に日本が二島返還で妥協してもその第一条件として日米安保条約の破棄があります。これはオホーツク海に米軍が進入するのを防ぐためです。と、このように北方領土問題が解決しない原因は言つていけばきりがありません。戻りたい元島民の人がいれば、離れたくない現島民の人もある。結局のところこの問題を終結させるのは困難であるし、終結させたところどころかに被害が出るのは目に見えています。でもクリル開発計画がまだ終了していない今、この問題を終結させなければなりません。終わつてしまえばもう戻れることは無

いでしょう。だからせめてもの案として北方四島に住んでいる住民を択捉島、いやサハリンに移住させて残りあるいは四島を国連の信託統治地域とした後で日口が北方四島あるいは千島列島の世界自然遺産登録に尽力するという案を提案します。

北方領土とわたしたち

黒部市立高志野中学校 三年 中西 愛子

北方領土は本当はどここの国のものなんだろう。そんな素朴な疑問から始めた北方領土の調べ学習でしたが、調べていくうちに、北方領土は、これからの日本とロシアの関係に大きく関わる重要な問題なんだと意識するようになりました。

初めは日本人が住んでいた北方領土。しかし、戦争という大きなすれ違いがあり、条約など、事実上では日本のものだという北方領土でも今住んでいるのはロシアの人々です。

総合の時間で、元住民の方々のお話をきくと、突然ロシ

アの人々がやってきてとても苦しい思いをしたとききました。話が合わなかったり、差別があったりなどしたけど、負けた国が文句を言えなかったと悔しそうに話している姿を見て、私もすごく悲しくなりました。自分の故郷へ二度と帰れなくなるなんて考えたこともなかったけど、やっぱり、自分の生まれ育った場所へ帰れないのは絶対に嫌だと思えます。

そこで、私が思うのは、日本とロシアで北方領土を共有できないかという事です。同じ土地で仲良く暮らして、経済的な利益も半分ずつにすればどちらの国にとっても良い関係が築けると思います。現実的に難しい事かもしれませんが、ただ北方領土を返せと言っても返してくれないと思うし、何より、今北方領土で暮らしているロシアの人々の中にも、北方領土で生まれて育ち、北方領土を故郷だと思う人がたくさんいると思います。もし、日本に返ってきたとしても、ロシアでも日本のような返還運動が起こると思います。だから、ロシアが北方領土を手放せばいいという訳ではなくて、両国の人々にとって一番良い解決策を見つけていく事が私達の今すべき事だと思います。そのために私達は、少しでも多く北方領土を知り、考え、伝えていかなければなりません。日本人や富山県民として、一日でも

早く、誰でも北方領土へ自由に行ったり、暮らしたりして
いけるように願って、これからも北方領土への理解を深めて
いきたいです。

「北方領土問題」解決のために

黒部市立桜井中学校 三年 堀内裕美子

私は今まで「北方領土」の話は何回か聞いたことがあつたけれど、私はその話をまるでどこか遠くの国の話のようにとらえていて、自分とは全く無関係な、昔の出来事みたいなものだと思っていました。しかし今回学校の授業で初めてこの問題と真剣に向き合うことになりました。

「北方領土問題」は決して過去の出来事ではありませんでした。今現在も続いている問題なのです。私の住むこの富山県にも今もこの問題の解決のために訴え続けている人たちがいることを知りました。その人達は「北方領土問題」についてのビデオを通して様々なことを必死に伝えようとしていました。歴史や、毎日の生活、盛んだったこんぶ漁についてなどたくさんありましたがその人達が口をそろえ

て言うことがありました。それは「島に帰りたい。」ということでした。生活はそれほど豊かではなかったし、大変なことの方が多かったけれど、それでもその人たちにとつてとても大切な故郷だったのです。それをいきなり奪われてとてもつらい思いをしたことでしょう。その人たちはずっとずっといろんな活動を通して今も故郷へ帰るために一人でも多くの人に伝え、知ってもらおうと努力しています。この問題は島に住んでいた人たちや国だけでは解決できないからです。国民全員が正面から向き合うことが必要なのです。

戦争の終わった今、この問題を解決するにあたって重要なのは「北方領土」がロシアと日本のどちらの国のものか決めることではなく、元島民の人たちを島へ帰してあげることではないでしょうか。もちろん今住んでいるロシアの人々のこともあるので難しいことだと思います。けれども少しずつ交流する機会を増やしていけばいつか分かり合えると思います。国がどれだけこの問題に力を入れても人が変わらなければ解決はできないと思います。この問題解決のために、私はどんな小さなことでもやっていきたいと思えます。どんな難しい問題でもみんながそんな風にやっていたらきっと解決します。そのためにまずは多くの人にこ

の問題のことを知ってもらいたいです。

北方領土について

富山市立西部中学校 二年 山崎 千愛

今日、北方領土についてのビデオを見ました。北方領土については、授業で学習したので少しは知っていたのですが、詳しい事はあまり知りませんでした。今日の学習で北方領土と富山県民には、大きな関わりがあると知り興味をもち、自分でもっと詳しく調べてみました。

北方領土とは、択捉・国後・色丹・歯舞群島のことを言い、これら北方四島は一九四五年にソ連に不法占拠され、ソ連が崩壊してロシアとなった今もその状態が続いています。この問題の解決は、日露両国間の最大の懸案事項で、この問題を解決してロシアと平和条約を締結することにより、日露間に真の友好関係を確立するという方針のもと、日本政府は粘り強くロシア政府との領土返還交渉を行っています。

その日本政府の他にも領土返還のために、努力してきた

人々もいました。一番はじめに立ち上がったのが、根室町長の安藤石典です。彼は、戦災者の救助のみならず、ソ連によって占拠された北方領土からの引揚者の受入対策を全面的に取り上げ、援護の手を差し伸べるとともに、北方領土返還運動推進の陣頭指揮を執りました。その後協力者も増え、彼らと共に連合国への陳情計画を進め一九四五年十二月一日、安藤町長の名において、連合国最高司令官マッカーサー元帥に対し領土の返還を求める陳情を行いました。それが領土返還要求に関する陳情の第一号となりました。北方領土返還要求運動の原点はここにあり、これらの行動が北方領土返還要求運動の始まりとされているそうです。

そして、一九六五年の終戦二十周年を記念し、元島民を会員とした「千島歯舞諸島居住者連盟」が主唱して、北方領土の返還を求める国民一人一人の強い意志を署名に託してもらった北方領土返還要求署名活動が開始され、署名収集累積数は二〇〇八年二月に八千万人に達しました。署名活動は、北方領土返還実現まで、国民総意の北方領土返還要求運動の一つとして全国各地で展開されているそうです。

このように、北方領土返還のために今も昔もたくさんの人々が協力し、努力していることがわかったので、今後も

し自分にできる事があるとしたら私も協力することができると良いなと思いました。これからいつになるかはわかりませんが、北方領土が返還される日が早く来れば良いなと思います。

